

## 第15回雪のラブレター募集(入賞作品)

### 【俳句の部】

賞	最優秀賞
作品	恋文の嘘を燃やしている焚き火
作者	与太郎
住所	京都府
講評	楽しかった時間も、胸おどらせた言葉も皆偽りだったのだろうか。疑いに確信を得た今、もうすべてを忘れる以外ないのであろう。手紙を燃やしているのではない「嘘」を燃やしているという明確な心情が、その赫い火色と共に誰にでも見えてくる。

賞	優秀賞
作品	見上げれば告白せよと冬銀河
作者	穂刈 敏
住所	北海道
講評	冬の星は大気が澄んでいるのでいつにも増して鋭く光を放つ。特に昴、オリオン等見上げて倦くことはない。そしてその凜とした綺羅がやがて決意への励ましとなるのであろう。「よし！ 今度の日曜…やるぞ！」

賞	優秀賞
作品	鈍感な背中に放る雪つぶて
作者	小田島 陽子
住所	埼玉県
講評	「もう、じれったいなあー。こんなに待っているのにいー」。彼の様子も、彼女の心情もなぜかとても良く見えてくる。投げるではなく「放る」という言葉のもつ力加減が、何ともよく効いている。

賞	佳作
作品	幸せとこたへる雪の交叉点
作者	長畑 孝典
住所	大分県
講評	信号は赤、肩寄せ合って歩いてきたふたりが足を止める。彼がぼそっとひと言声にした。「幸せだよ…！」とそれに答える。何もかも雪に染まった街。車が行き交い、色とりどりのウェア、子供たちの声…。ふたりはまた歩き出す…。
作品	書き出しは雪にはじまる恋の文
作者	鈴木 蝶次
住所	宮城県
講評	手紙、殊に恋文となると、多くの人が夜に筆を持つのではないだろうか。暗い空から降りてくる雪。胸の内を伝える手紙はまた雪のこと。真白く、淡く、儂く、そしてしなやかな雪…。この雪、彼女も見ているだろうか…。
作品	初雪をバッグに詰めて君に逢う
作者	れつくす
住所	静岡県
講評	久しぶりに彼女と逢う朝。はからずとも初雪が積もっている。「彼女の住む街にはきっとまだ降ってないだろうな。そうだ！！彼女にこの雪を持っていこう。きっと驚くぞ！！」この日の楽しい様子が見えてきそうである。まさにサプライズ！

賞	入選
作品	雪だるまあごにほくろを付けてみる
作者	有賀亭頑馬
住所	茨城県
講評	好きなあの人の顔になっちゃうのかな？
作品	追伸になほ雪のこと夢のこと
作者	びわ娘
住所	滋賀県
講評	いくら言葉を尽くしても、この雪の美しさと明日への夢は伝えきれない。
作品	豪雪の村に産声響きけり
作者	かすみそう
住所	北海道
講評	私たちにとって産声ほど嬉しく未来を感じさせるものはない。村中に響き渡るように思えるのもリアルそのもの。
作品	雪を吹くかたちできみにキスをする
作者	菜畑西空
住所	東京都
講評	大粒の牡丹雪を吹くように、やさしくやさしく…。
作品	肩の雪はらいあつての別れかな
作者	金沢 澄子
住所	静岡県
講評	いろいろあつたけど…またいつか…。
作品	雪が好きと君が言うから冬が好き
作者	小河原 芙美
住所	千葉県
講評	今までと違った冬が、私にはじまる…。

選者：大類つとむ氏(山形県現代俳句協会会長、俳誌「陸」「街」同人)

応募作品数：3,741作品